

進捗状況報告シート

(2011年度・大学)

担当部局は ☆印の箇所を記入してください。

I. 評価項目・要素と担当部局

| | |
|------|--|
| 対象部局 | 商学部 |
| 大項目 | 9 教育研究等環境 |
| 中項目 | |
| 小項目 | 9.0.4 教育研究等を支援する環境や条件は適切に整備されているか。 |
| 要素 | 教育課程の特徴、学生数、教育方法等に応じた施設・設備の整備 ティーチング・アシスタント (TA) ・リサーチ・アシスタント (RA) ・技術スタッフなど教育研究支援体制の整備 教員の研究費・研究室および研究専念時間の確保 |

II. 自己点検・評価(2010.5.1～2011.4.30の進捗状況報告)

《目標・指標》

本項目において、2009年度～2013年度の中期的な「目標」と「指標」を次のとおり設定し、毎年度進捗状況の評価を行っている。進捗評価はA～Dの4段階とし自ら評価した。A～D評価は目安として次のようなものである。

- A : 目標実現のための計画や方策などを適切に実行し、目標を達成している。もしくはほぼ達成している。
 B : 目標実現のための計画や方策などを概ね適切に実行しているが、まだ目標は達成していない。
 C : 目標実現のための計画や方策などを実行しているが十分ではなく、目標は達成していない。達成にはまだしばらく時間がかかる。
 D : 目標実現のための計画や方策などを実行していない。当然目標は達成していない。

| 2009年度に設定した「目標」 | 左記目標の「指標」 | 進捗評価 | | | | |
|--|--|------|------|------|------|------|
| | | 2009 | 2010 | 2011 | 2012 | 2013 |
| 1. 既存教室の視聴覚機器、情報処理機器を充実させる。 | →貸出用CD・DVDプレイヤー、カセットデッキなどの所有台数、およびプロジェクター、PCの設置台数。 | C | C | | | |
| 2. TA (ティーチング・アシスタント) によるチューター制度を確立する。 | →規程の明文化。 | D | D | | | |
| 3. 学部各種教員の業務負担軽減により、教員の研究時間を確保する。 | →学部各種委員会数、委員数、1人あたりの委員割合。 | C | C | | | |

☆

| 2010年度以降に設定した「目標」 | 左記目標の「指標」 | 進捗評価 | | | | |
|-------------------|-----------|------|------|------|------|------|
| | | 2009 | 2010 | 2011 | 2012 | 2013 |
| | → | | | | | |
| | → | | | | | |

《現状の説明》 ※ 全小項目について記述が必要

| | |
|----------|---|
| ☆ | 9.0.4 教育研究等を支援する環境や条件は適切に整備されているか。 |
| 小項目9.0.4 | (説明) 教育研究を支援する施設・設備の整備については、教育上のニーズ、教育方針、教育方法に基づき、計画的に全学的な視点でそのあり方を検討していく必要がある。一方で本学部本館のように古い教室では、設備的には限界があり、視聴覚機器に関してはほぼ補充にとどまっている。しかしPCについては、現在学部独自で維持・運用しているが、2010年夏以降、全学での教育研究用PCリプレース時に、PC環境を全学に合わせることにより、学生の便益のみならず業務量、管理費用面でも有効であるため検討を重ね、リプレース時期、リース契約等を全学に合わせている。 また、人的な教育環境の支援については、初年次教育の観点から、授業支援を行うティーチング・アシスタント (TA) 制度を取り入れる必要がある。しかしながら、まだ調査、検討の段階で進んでいないのが現状である。 大学教員の果たす使命として、教育による人材育成とともに、学問的研究が大きな比重を占めている。社会的評価として重視されるのは、もちろん発表論文数や学会発表件数であり、そのための研究専念時間を確保する必要性は高い。学部での各種委員の業務負担が増えてきており、教員の研究時間を少しでも確保すべく、各種委員会の構成人数を減らし、複数の委員会への所属を減じている。 |
| ☆ | その他 |

《評価指標データ》

(特定指標データ)本項目は数量的なデータによる評価(現状分析)が可能のため、次のとおり指標を定め経年比較している。

| 【商学部】 | | | 単位 | 2007 | 2008 | 2009 | 2010 | 2011 | 備考 |
|-------|---------------------------|---------------|----|------|------|------|------|------|---------------|
| 指標1 | 教学補佐、実験実習補佐・教務補佐、授業補佐の採用数 | 教学補佐 | 人 | 24 | 28 | 25 | 21 | 24 | |
| | | 実験実習指導補佐・教務補佐 | 人 | 3 | 3 | 3 | 3 | 3 | |
| | | 授業補佐 | 人 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | |
| 指標2 | 専任教員の担当授業時間(平均) | 教授 | 時間 | 13.2 | 12.8 | 11.3 | 11.9 | 14.9 | 45分をもって1時間に換算 |
| | | 准教授 | 時間 | 10.9 | 10.4 | 9.9 | 11.4 | 11.3 | |
| | | 講師 | 時間 | 8.5 | 6.7 | — | — | — | |
| | | 助教 | 時間 | — | — | — | — | 8.0 | |

(その他の指標データ)

- 専任教員の研究費(実績)【大学基礎データ】
- 専任の研究旅費【大学基礎データ】
- 学内共同研究費【大学基礎データ】
- 教員研究費内訳【大学基礎データ】
- 科研費の申請・採択件数【大学基礎データ】
- 学外からの研究費の総額と一人当たりの額【大学基礎データ】
- 外部資金等導入状況【基本的な指標データ】
- 教員の研究室の整備状況【大学基礎データ】
- 学部、研究科ごとの講義室、演習室の面積・規模【大学基礎データ】
- 学部、研究科ごとの学生用実験・実習室の面積・規【大学基礎データ】
- 学部、研究科ごとの規模別講義室・演習室使用状況【大学基礎データ】
- 留学、特別研究期間制度、自由研究期間制度の利用状況【基本的な指標データ】

☆ 追加データがあれば追加してください。

◎効果が上がっている事項 ※目標の進捗評価が「A」の場合は必ず記述してください。

《点検・評価(1)》効果が上がっている事項 注)出来るだけ内容を裏付ける客観的根拠を記述してください。

| | |
|----------|--|
| 小項目9.0.4 | |
| その他 | |

《次年度に向けた方策(1)》伸長させるための方策

注)出来るだけ手順や方法を明確にするなど行動計画を具体的に記述してください。

| | |
|----------|--|
| 小項目9.0.4 | |
| その他 | |

◎改善すべき事項 ※目標の進捗評価が「D」の場合は必ず記述してください。

《点検・評価(2)》改善すべき事項 注)出来るだけ内容を裏付ける客観的根拠を記述してください。

| | |
|----------|--|
| 小項目9.0.4 | TA(ティーチング・アシスタント)によるチューター制度の確立は全学的な懸案事項となっているが、実現するに至っていない。かかる制度の導入には予算枠を新たに設けるだけの資金力が最重要であり、次いで、授業支援能力を有した人員の獲得ならびに養成が急がれる。 |
| その他 | |

《次年度に向けた方策(2)》改善方策

注)出来るだけ手順や方法を明確にするなど行動計画を具体的に記述してください。

| | |
|----------|----------------------------------|
| 小項目9.0.4 | TAの公募を全学的あるいは学部においてに実施する方法を検討する。 |
| その他 | |

◎自由記述

《点検・評価》&《次年度に向けた方策》

| | |
|-----------|--|
| その他(自由記述) | |
|-----------|--|

Ⅲ. 学内第三者評価

＜評価専門委員会の評価＞

【学外委員】

○T Aによるチューター制度の早期整備が求められます。教員の研究専念時間の確保も喫緊の課題です。

【学内委員】

○現状の課題や問題点について、もう少し具体的に、指標データも引用しつつ説明することが望まれます。

○現状説明は3つの目標についての内容です。環境や条件に関するその他について、大学基準協会の留意事項や評価指標データなどを参考にされて説明されれば、より適切な記述になると思います。

【大学基準協会：評価に際し留意すべき事項】

○小項目9.0.4

基盤評価：「専任教員に対して、研究活動に必要な研究費を支給している」「専任教員に対する研究室を整備している」

○小項目9.0.4&9.0.5

達成度評価：「教育研究を支援する環境や条件が、その整備・運用状況等から見て、方針に沿い、適切である。その際、下記事項については、当該大学の特質に応じて、適切な配慮を行っている。

- ・研究専念時間の設定など、教員の研究機会の保障
- ・ティーチング・アシスタント（T A）、リサーチ・アシスタント（R A）等の人的支援
- ・研究倫理に関する規程の整備、研修会の開催、学内審査機関の設置等、研究倫理を浸透させるための措置

Ⅳ. 学内第三者評価の評価結果を受けての追加記述

★ 教学補佐は大学院生から選考することを基本としているため、人員数に少なからぬ変動が出てくることは現行では避けられない。T Aによるチューター制度の整備のためには、人員増のための予算措置とともに人員確保の方策について改善が求められている。